

シデコブシ

枝垂れ梅を見るつもりで出かけたところ、近所の公園に隣接する団地に、見たことのない美しい花木を見つけました。花は桜を濃くしたような色。しかし、八重桜ほど紅くはないピンク色で、花びらは辛夷（コブシ）の形。過去に見た記憶のない花です。

説明の看板には、「シデコブシ」と書かれています。準絶滅危惧種に指定されているとも。人間の背丈ほどの高さで、大きな木ではありません。もともと自生していたものか、植栽されたものかの説明はありませんでした。

そのまま歩き続けると、少し離れた逸翁美術館の玄関に、同じシデコブシを見つけました。こちらには看板はありません。玄関の植栽ですから、造園用に植栽されたものです。中木程度の大きさで、先程の木より二回りくらい大きな樹木になっています。

それから1週間ほど後、滋賀県の朽木に行きました。若狭小浜から京都に続く鯖街道の街です。安曇川の堤防に桜が植わり、自然な川が美しく、昨年からお気に入りの場所の一つです。桜を見るつもりで道の駅に車を駐めました。そうしたら、車の前に大きなシデコブシ。樹高が5メートルはあります。白の辛夷と一対に植えられています。1週間ほどの間に準絶滅危惧種を3本発見したわけです。しかも、どうやら植栽された物を見つけたようです。

中嶋哲夫の「人事も歩けば」



▲樹高5メートルのシデコブシ

調べると、シデコブシの自生個体は環境省の準絶滅危惧種としてレッド・リストに掲載されているそうです。愛知県や岐阜県が自生する南限。にもかかわらず、大阪や滋賀に植えられているのは、栽培されたものがあることを意味します。であれば、今後、いろいろな場所で見ることができそうです。

話が変わりますが、アーシュラ・K・ル＝グウィン『ゲド戦記』では、名前がわからないと魔法がかからないことを前提に話が進んだと記憶をしています。シデコブシの名前がわかり、花の特徴を覚えたことで、異なる場所でもそれを認識できるようになりました。庭木、花木という抽象度の高さではなく、シデコブシという指し示すことができるレベルの言葉を知ること、それが物の見方を変えること。組織での出来事を、どんな言葉で認識し、伝えるかが人事マンの能力の一つであることを再確認する思いでした。

(MBO 実践支援センター代表)